

市響

第431回「ファミリー交響楽」



指揮：三原明人

管弦楽：市川交響楽団

2023.12.3(日)

14:00開演(13:30開場)

市川市文化会館大ホール

(JR総武線・本八幡駅下車)

入場無料

ピアノ：野上真梨子

photo by Shigeto Imura

お問い合わせ：main@ichikyo.org 市響ホームページ：<http://ichikyo.org/>

主催：市川交響楽団協会 共催：市川市 協力：山崎製パン株式会社 株式会社全日警 株式会社伊藤楽器 後援：千葉交響楽団協会

本日のプログラム

ドビュッシー / 管弦楽のための「映像」より 《イベリア》 (20分)

1. 街の道と田舎の道(Par les rues et par les chemins)
2. 夜の薫り(Les parfums de la nuit)
3. 祭りの日の朝(Le matin d'un jour de fête)

プロコフィエフ / ピアノ協奏曲 第3番 (30分)

1. Andante - Allegro
2. 主題と変奏: Andantino
3. Allegro, ma non troppo



(15分)

ブラームス / 交響曲第4番 作品 98 (45分)

1. Allegro non troppo
2. Andante moderato
3. Allegro giocoso
4. Allegro energico e passionato

プロフィール



指揮／三原明人 (みはら・あきひと)

1961年東京生まれ。東京芸術大学でヴィオラを専攻、その後桐朋学園とウィーン国立音楽大学で指揮法を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、カール・エステルライヒャー、ヴァーツラフ・ノイマン各氏に師事。さらにイタリアでゲンナジ・ロジェストヴェンスキイ、モーシェ・アツモン、ドイツでヘリベルト・バイセル各氏に師事。1989年オランダで行われた「第2回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」第2位、1993年ドイツ・ハレで開かれた若手指揮者育成のための「DIRIGENTEN FORUM」で最優秀ファイナリスト、1996年ポルトガルで行なわれた「第8回リスボン国際青年指揮者コンクール」第3位（1位なし）入賞。

1989/1990のシーズン、ウィーン・フィルのコンサートでレナード・バーンスタインのアシスタントを務め、1991年よりオペラ作品などで外山雄三、広上淳一各氏のアシスタント、1996年ベルリン・フィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務めるなど研鑽を積みながら、ヨーロッパと日本を中心に活動。これまでにオランダ放送フィル、ドイツ・ハレ国立フィル、ブタペストMAV響、リスボン・メトロポリタン管、フィンランド・クオピオ響、ブルガリアの名門ソフィア・フィル、読売日響、東京都響、日本フィル、東京フィル、東京交響楽団、札幌交響楽団、山形交響楽団、群馬交響楽団、神奈川フィル、名古屋フィル、オーケストラアンサンブル金沢、大阪センチュリー響、広島交響楽団、佼成ウィンドなどを指揮して、コンサート、テレビ、ラジオなどへの放送録音、CD・映画音楽製作など各方面から高い評価を得ている。特に京都フィル定期では、ビニャオのマリンバ協奏曲日本初演のほか、武満の「トゥリー・ライン」、シェーンベルクの室内交響曲を指揮し、新聞ほか各誌で絶賛された。現在は東京音楽大学及び同大学院にて後進の育成にも務めるほか、自らオーケストラや室内アンサンブルを主宰するなど意欲的な活動を展開している。

中学～高校時代に市響ジュニアオーケストラ創設時の初代コンサートマスターを務め、故村上正治氏の薰陶を受ける。芸大卒業まで市響団員としてヴァイオリン及びヴィオラで演奏に参加、その後指揮者として何度も市響の指揮台に立つなど、市響とは永く深く関わっている。

ピアノ/野上真梨子 (のがみ・まりこ)

千葉県市川市出身。第8回青少年ショパン国際ピアノコンクール（ポーランド）日本人初の第1位。第4回北本コンクール高校生部門第1位、ならびに全部門通じての《最優秀賞》を受賞。第6回ブルクハルト国際音楽コンクールピアノ部門第1位。第16回、第17回ショパン国際ピアノコンクール（ポーランド）ディプロマ。第1回いしかわ国際ピアノコンクール大学・一般部門金賞ならびに2つの審査員特別賞と邦人作品演奏賞を受賞。第25回市川市新人演奏家コンクール優秀賞。第20回やちよ音楽コンクール第1位。ザルツブルク=モーツアルト国際室内楽コンクール2014第3位。第5回野島稔・よこすかピアノコンクール第1位。アントン・ルービンシュタイン国際コンクール2017（ドイツ）第3位。アルトゥール・シュナーベルコンクール（ドイツ）第2位。2018, 2020年度ロームミュージックファンデーション奨学生。

2007年公開の映画《ピアノの森》で、“誉子”役のピアノを担当。サウンド・トラックCDがソニー・レコードから発売されている。

これまでに、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団等多数のオーケストラと共に演。また、日本各地やドイツ、ポーランドでリサイタルを開催。

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部と共に首席で卒業。ベルリン芸術大学大学院修了、同大学で国家演奏家資格を取得。これまでに下田幸二、高橋多佳子、野島稔、ビヨルン・レーマンの各氏に師事。現在桐朋学園大学音楽学部弦楽器部会嘱託演奏員。積極的に演奏活動を行う一方、日本女子大学他で後進の指導に当たっている。



プログラムノート

かんばらひとし

ドビュッシー / 管弦楽のための『映像』よりイベリア

ドビュッシーは20世紀初頭からフランスで活躍した自由な和声法など革新的な作曲家です。

性格は内向的かつ非社交的で、若い頃に音楽院では伝統を破壊しかねない言動が絶えず、教師とのトラブルが絶えませんでした。

女性関係も盛んで、この管弦楽のための『映像』が書かれた頃から、教え子の母親で銀行家の妻エンマと不倫関係になります。それが原因で妻リリーはコンコルド広場で拳銃自殺未遂をはかり、離婚に至ります。エンマはその時ドビュッシーの子供を身ごもつていており、2人はイギリスに逃亡します。友人の多くを失った2人でしたが、エンマの出産に際しパリに戻り同棲生活を始め、この曲が完成する年に結婚します。愛娘シュシュはドビュッシーに溺愛され、『子供の領分』を献呈されます。



管弦楽のための『映像』は「ジーグ」イギリス(バグパイプ)「イベリア」スペイン、「春のロンド」フランスの、民族音楽的なイメージを持つ3曲から構成され、本日は「イベリア」をお聞きください。この「イベリア」は3つの曲からできています。

1. 街の道と田舎の道 (Par les rues et par les chemins)

スペインらしい温暖でキリッとした地中海性気候を思わせる曲です。どの部分が街で、どの部分が田舎なのか想像して聞いてみてください。

2. 夜の薫り (Les parfums de la nuit)

黒は300色あるそうですが、夜の暗さにもいろいろあります。あとこの曲を聴くと思ってしまいます。視覚だけでなく、嗅覚、聴覚、触覚、もしかすると味覚まで総動員すると、真っ暗な夜も素敵なものになるでしょう。

3. 祭りの日の朝 (Le matin d'un jour de fête)

夜が明けると今日はお祭り、人が思い思いの鼻歌がだんだん活気付いて、気持ちが一つに高揚していく様をお聞きください。

プロコフィエフ / ピアノ協奏曲 第3番



ウラジオストックから船に乗って敦賀に着いた。

大正7年5月31日、ウクライナ生まれのプロコフィエフ27歳はロシア革命から逃れ、アメリカへの亡命する途中でした。翌日鉄道で東京へ向かいますが、あいにく乗る予定の船は3日前に出航してしまい、次は8月までなし、2ヶ月以上の日本滞在を余儀なくされます。

帝政ロシアは日露戦争での実質的敗北とロシア革命により国力が弱体化し、自國通貨の価値は日に日に下落していきます。プロコフィエフは3ヶ月近くの日本滞在で金銭面で苦労することになります。

それを救ったのが、たまたま横浜グランドホテルの宿泊者名簿に彼の名前を見つけた帝国劇場の支配人です。7月2日、梅雨

晴れの暑い日の夕方、帝劇はプロコフィエフ歓迎の宴を赤坂溜池の料亭花月で催します。

ここで若き音楽評論家大田黒とプロコフィエフは意気投合します。大田黒は大森の自宅のピアノを好きなときに弾きにくるよう言い、プロコフィエフの弾くピアノに大黒田は涙を流して感動したと伝えられています。

8月に大黒田に別れを告げ渡米したプロコフィエフは、ロシア時代から温め続けていたピアノ協奏曲第3番を、3年後に仕上げます。

第1楽章はクラリネットから始まる静かなイントロの後、弦楽器の活気あるリズムに乗って現れるピアノソロは、私たちの耳を一度捉えたら決して離すことなく、一気に曲を聴かせてしまう魅力があります。木管楽器によるプロコフィエフらしいテーマで始まる**第2楽章**はその主題と変奏です。**第3楽章**には日本の『越後獅子』を思わせる旋律が使われています。赤坂溜池の料亭花月での思い出を「芸者が踊り、客一人につき若くてきれいな女性二人がそばに座った。とても楽しかった。」とプロコフィエフは日本滞在日記に書いています。プロコフィエフの来日は、大正時代の日本音楽界に大きな影響を与えることとなると同時に、プロコフィエフ自身与えたものもお大きかったのでしょうか。

ブラームス / 交響曲第4番 作品98

日本語の歌は、基本的に音符1つに対して1つの音が割り当てられています。実はこれはとても珍しいことです。ブラームスの話すドイツ語では1つの音符に多くの音が詰まっています。

わかりやすく、ゲーテが歌詞を書いた『野ばら』を日本語訳と対比させるとこんな感じです。



Sah ein Knab' ein Roeslein stehn, Roeslein auf der Heiden,
わ ら ベ は み た り の な か の ば ら
「ら」はein(айн)、「ベ」はKnab'(クナープ)といったようにです。

ドイツ人のブラームスは言葉がドイツ語だけでなく、音楽もドイツ語で書いていると仮定すると、ブラームスのブラームスらしさ、ドイツ音楽の重厚な音作りと旋律のうねりのあるドイツらしさの理由がわかる気がします。

ブラームスは交響曲の作曲に慎重で、着想から21年をかけて1876年に第1交響曲を完成すると、翌年には第2番、83年には第3番、85年には第4番と立て続けに書き上げていきます。

第1楽章は、特徴的な出だしでいきなり提示される第1主題と、チェロとホルンにより朗々と歌われる第2主題が聴きどころです。ホルンで始まる**第2楽章**は修道院の禁欲的なイメージから始まり、三連音のモチーフが合わされることをきっかけに、チェロでブラームスの思いが現れ、弦楽全体にまで高まります。**第3楽章**は2拍子のスケルツォです。上声部と下声部が、逆に動く逆行型から始まり、次から次へとメロディが生まれ出します。途中ホルンの牧歌的フレーズを挟み、ファンファーレ風のトランペットで締め括られます。**第4楽章**は30の変奏とコーダを伴うシャコンヌです。「シャコンヌ」とは低音が一定の和音進行を繰り返していく3拍子のゆったりとした舞曲のことです。8小節単位で次々と表情を変えるを楽しんだあと、「ラメント・バス」と呼ばれるバロック時代に悲しみを表す音形と、それに続く長いフルート・ソロとコラールはこの楽章の聴きどころです。その後曲は激しくトロンボーンの一撃で終結に向かいます。

交響曲第4番は短調で始まり短調で終わります。短調で始まり長調で終わる、それは苦悩から歡喜へというパタンを作り上げた偉大なるベートーヴェンの呪縛から、ブラームスは解き放たれたのです。

第434回市響「交響楽の午後」

「第3回 市川市文化振興財団 芸術文化奨励賞」

澤村杏太郎氏 <受賞記念演奏会>

次回
演奏会のご案内

令和6年(2024)7月21日(日)午後2時開演
市川市文化会館大ホール

指揮 澤村杏太郎
管弦楽 市川交響楽団

主催 市川交響楽団協会
共催 市川市
後援 公益財団法人 市川市文化振興財団

管弦楽：市川交響楽団（いちかわこうきょうがくだん）

市川交響楽団協会は昭和 26 年(1951)7 月に発足し、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う文化団体です。しかも音楽の中で最も強力に共鳴感を起させるシンフォニックな楽団の育成と、その演奏活動の実践を容易ならしめるための社会教育団体でありまして、利益を得る団体でも、ただ自分中心の趣味だけを満足させる同好会でもありません。

自分達のクラシック音楽を表現する喜びを少しでも多くの人に分け与えようとする奉仕団体として、地元市川市を本拠地に演奏活動を行っております。当協会は、市川交響楽団、市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラ、行徳混声合唱団の演奏 5 団体および市響ジュニア育成会によって組織されております。

市川交響楽団は昭和 55 年(1980)度のサントリー地域文化賞をサントリー文化財団より受賞、協会は昭和 58 年(1983)11 月に文部大臣地域文化功労賞を受賞しております。

平成 21 年(2009)2 月にはこれまでの 60 年近くにわたる演奏活動と、今後の永続的な展開を期待され、市民の推薦による市川市民芸術文化奨励賞を受賞しました。

「市川交響楽団協会」は平成 30 年(2018)11 月に商標登録を行いました。(登録第 6103031 号)

先日 11 月 1 日に千葉交響楽団協会理事長で、市川交響楽団幹事長時田雄は令和 4 年千葉県教育功労賞(文化芸術の部)として表彰されました。千葉県内のアマオケ活動の展開のなかで地域音楽文化振興の活動についての評価をいただいたものと理解しています。



本日の出演者

【コンサートミストレス】

立 田 祥 子

【第1ヴァイオリン】

石 崎 俊 信

大 橋 かおる

大 橋 一 郎

皆 合 愛 子

桑 原 啓 輔

佐 分 利 幸 江

秦 一 宣

細 貝 春

森 郁 子

山 本 芳 功

渡 辺 綱 介

【第2ヴァイオリン】

岩 田 徳 子

佐 藤 薫

滝 泽 葉 子

富 田 八江子

中 野 さゆり

服 部 恵 子

早 川 貴 子

牧 田 太 郎

溝 田 範 子

武 藤 敦 子

【ヴィオラ】

石 本 恵 理

内 田 綾 美

園 田 陽 子

高 橋 陽 介

谷 口 善 樹

奈 良 林 弘 子

星 乘 昭

本 郷 尚 子

【チェロ】

泉 谷 良 枝

岩 田 啓 子

倉 泽 倫 子

倉 泽 由 和

中 村 公 一

日 澤 優

福 原 耕 二

【コントラバス】

池 田 和 正

入 村 尚 美

上 村 啓 介

神 代 順 子

番 場 仙 嘉

古 里 良 美

【フルート・ピッコロ】

秋 山 愛 美

佐 藤 洋 行

徳 重 京 子

二 木 陽 子

【オーボエ】

白 木 広 美

二 村 直 子

本 間 広 樹

【クラリネット】

赤 井 美 奈

秋 永 直 美

井 垣 貴 嗣

時 田 雄

半 藤 嗣 人

八 木 良 子

【ファゴット】

遠 藤 由 紀 子

尾 崎 和 行

金 坂 哲

佐 々 木 杏 子

山 内 静

【ホルン】

井 村 公 子

上 田 麻 未

近 藤 利 昭

武 井 綾 香

【トランペット】

田 崎 真 二

新 井 本 昌 宏

西 村 雅 洋

【トロンボーン】

石 黒 弘 道

藤 平 一 仁

藪 崎 裕 至

【チューバ】

渡 邊 鐵 雅

【打楽器】

小 川 敏 弘

篠 崎 美 奈 子

鈴 木 充

都 筑 裕

時 田 裕

和 田 英 恵

【ハープ】

大 木 理 恵

【チェレスター】

畠 野 葵

【コントラファゴット】

平 賀 紀 章



いつも、
そばにあるおいしさ。

大切な人と食卓を囲む時。
一人で元気を出したい時。
ほっとしたい時。

みなさまのおいしい笑顔の
そばにあること。
そのおいしさを、
毎日お届けすること。

私たちは、食を通じてみなさまに、
安心をお届けします。
これまでも、これからも。



♪～第431回市響「ファミリー交響楽」定期演奏会～♪

にお越しくださいまして誠に有難うございます。

令和5年12月3日(日)午後2時開演 市川市文化会館大ホール

主催：市川交響楽団協会、共催：市川市、協力：山崎製パン(株)、全日警(株)、伊藤楽器(株)
後援：千葉交響楽団協会

＜維持会員加入のお願い＞

市川交響楽団協会“市響”は千葉県市川市の音楽教員であった故村上正治先生により昭和26年(1951)に創設されました。現在の加盟団体は市川混声合唱団(昭和24年)、市川交響楽団(昭和26年)、市川交響吹奏楽団(昭和35年)、市響ジュニアオーケストラ(昭和50年)、行徳混声合唱団(昭和54年)の5つの演奏団体に市響ジュニアオーケストラ育成会(昭和59年)を加えた6つの団体で構成されています。発足時は戦後の荒廃の失意の中で過ごす人々の心を癒す“クラシック音楽の普及”を目指して活動してまいりましたが、近年では“クラシック音楽の演奏を通じて地域文化の振興に貢献したい”との思いを基本方針に年間を通じて多彩な演奏活動を行っております。

これまで“市響”は主催する演奏会をすべて入場無料で行ってまいりました。この活動が今まで続けられたのも御理解ある有志の皆様の大きなご援助があってこそ可能でした。本日を機会に是非とも維持会員にご加入下さることで、皆様の更なるご支援を賜りたくお願い申し上げます。

令和5年12月3日 市川交響楽団協会理事長 時田 雄

<会員>	(1) 賛助会員年度会費	20,000円
	(2) 維持会員年度会費	5,000円(1口)

<特典>	(1) “市響”が開催する演奏会の招待状をご送付致します。
	(2) 定期演奏会時プログラムと一緒に会員名簿を配布致します。

<お申込み方法>	演奏会各場の『会員受付』でお申込み頂くか下記郵便口座にお振込みをお願い申し上げます。
	お振込先～市川交響楽団協会 郵便口座番号：00270-5-130648

<連絡先>	事務局 〒272-0804 市川市南大野2-26-7 篠田要衛 TEL&FAX 047-339-3554
-------	--

＜市川交響楽団協会役員会＞

令和5年11月1日

会長	飯島 延浩	副会長	村上 信乃
理事長	時田 雄	副理事長	星 乘昭
理事	伊藤 賢二 田中 甲	片岡 直公	森田 敏裕
	世川 望 立田 祥子	土橋 靖子	能村 研三
	平田 史郎 三木 晴雄		
監事	杉田 仁 大坂 正美	評議員	飯島 茂彰
名誉指揮者	早川 正昭	常任指揮者	大津 康平
幹事長(代表)	篠田 要衛 時田 雄	渡邊 匠	石井 省二
	渡邊 千絵		金山 志穂
事務局長	篠田 要衛	事務局次長	半藤 瞬人

＜賛助会員＞ (敬称略)

アウェイク事務所	飯島 茂彰	飯島 延浩	飯島 庸江	出光 昭介	伊藤 賢二	内田 一孝
片岡 直公	古賀 正一	古賀 加奈子	齊藤 紀子	鳴田 久仁夫	鈴木 良一	世川 勇
世川 岬子	泰道 三八	西垣 由子	西林 照子	能村 研三	早川 正昭	丸山 佐紀子
三木 敏行	三木 晴雄	村上 信乃	村上 葉子	山田 不二雄	横尾 芳昭	横田 礼名

＜維持会員＞（敬称略）

阿部 泰明	新井 宏光	新井 弥生	荒木 洋子	石渡 源治	市川市洋舞踊協会	井手 正明
伊藤 慶久	伊藤 和子	伊藤楽器	岩田 三和子	浮ヶ谷 只仁	浮ヶ谷 純子	内田 綾美
大石 秀子	大坂 國彦	大竹 夕力子	大塚 修平	大矢 勝實	沖本 正子	金定 雅子
糸 雅子	川又 京子	菊池 克彦	樹下 啓介	木下 洋子	木村 英樹	久家 光彦
久米 英廣	桑村 益夫	桑村 和子	小池 征男	國府濱 敦子	後藤 妙子	小松崎 幸子
金野 マル子	齋藤 稔	坂詰 貴司	坂本 篤信	佐藤 龍雄	佐藤 万佐子	佐藤 俊夫
佐藤 憲昭	篠田 要衛	柴田 静治	嶋田 健一	白取 博子	進藤 英雄	鈴木 敦子
鈴木 美知代	鈴木 珠美	鈴木 勇	園田 美智子	染野 直之	高木 克則	高階 公恵
高橋 由妃	武井 敏行	立田 光廣	谷口 四郎	辻本 富子	十枝 和宏	戸田 正昭
内藤 富士子	永田 孝	永野 貞子	中村 雄司	中山 秀雄	並木 美智子	南波 みさ子
西川 淳子	西嶋 順幸	西野 薫	野口 道子	荻野 智美	箱田 篤	橋本 昌明
橋本 洋子	長谷川 壮司	長谷川 加代子	秦 光昭	服部 真知子	林 順子	春田 実章
藤井 昭宏	藤本 幸温	二村 直子	古谷 ヤス子	堀江 桂爾	松延 弘子	松本 孝子
丸山 晃司	水野 博子	箕輪 良行	守屋 貴子	矢作 ミキ	薮崎 裕至	山内 正晴
山岡 和宏	山崎 悠子	山下 良久	山本 喜相	横塚 和幸	横塚 英子	横山 仁司
横山 真弓	吉岡 一郎	吉川 ひろみ	米村 さとみ	渡邊 澄恵		



【ピアノ：野上真梨子さんにインタビュー】

1. Qe 〈ピアノを始めたきっかけを教えてください。〉

○An. 母がピアノを教えていたことがきっかけで、3,4歳ごろから自然とピアノを始めました。始めた頃の記憶はありませんが、最初遊び感覚で習っていたようです。

2. Qe 〈市川市との縁は？〉

○An. 幼少期からドイツに留学するまで市川市に住んでいました。慣れ親しんだ地元です。

3. Qe 〈ショパンコンクールに3回挑戦されたそうですが、それについてお聞かせください。〉

○An. ショパンコンクールは課題が全てショパンの作品という珍しいコンクールですが、毎回集中的にショパンの作品と向き合う事ができて大変勉強になりました。世界が注目する大きなコンクールということもあり本番での緊張感は半端なかったですが、ショパンの故郷ワルシャワで演奏できたことはかけがえのない経験となっています。

4. Qe 〈作曲家プロコフィエフの魅力は〉

○An. 壮大でダイナミックな音楽や美しい叙情性など、様々な面を持ち合わせた素晴らしい作曲家です。ピアノ協奏曲第3番は非常にエネルギーッシュな音楽で、音色の多彩さも存分に感じられる作品だと思います。ソリストとオーケストラの掛け合いも聴きどころの一つです！

5. Qe. 〈お時間がある時は何をされていますか、ピアノ以外でお好きな事ありますか？

例えばピアノ弾くのに体力いると思うので筋トレなどされているのかなと。〉

○An. 時間がある時もピアノを弾いていることが多いです（笑）あとは、音楽を聴くのも好きなのでピアノ曲はもちろん、ピアノ曲以外の作品を聴くことも好きです。特別な筋トレはしていませんが、手や体を痛めないようストレッチやヨガをするように心掛けています。

【ショパン国際ピアノコンクールの凄さ！】

世界でもっとも権威のあるピアノコンクールのひとつとして知られるショパン国際ピアノコンクールは、ピアニストを目指す若者たちのあこがれの舞台。そのため、毎回応募者はきわめて多く、書類、音源、映像による事前選考がおこなわれていたが、より公平にコンテストを選抜しようと2005年から本大会の前に予備予選が実施されるようになった。今回の応募者は、前回の353名をはるかに上回る445名。書類・DVD審査で予備予選参加者160名を選ぶのは大変な作業だったという。その中に今回市響と共に演する野上真梨子さんは3回も挑戦し続けた。審査委員長のカタジーナ・ポポヴァ=ズィドロンをはじめとするポーランドのピアニスト、指導者、音楽学者など8名の審査員が2週間にわたって1日8時間から10時間DVDを視聴したそうだ。日本からの応募者は最多の88名だったが、予備予選に進んだのは25名。中国は26名、韓国は24名、地元ポーランドは21名、ロシアとアメリカが11名、フランスが6名、イギリスとイタリアが5名……、ショパン・インスティテュートが指定した主要な国際コンクール第2位までの入賞者とポーランドの国内選抜第2位までの入賞者だ。80名の枠の7名がすでに決まっているので、予備予選参加者にとって10月の本大会への出場は、狭き門だったと言えよう。第17回ショパン国際ピアノコンクールのコンテストを選抜する予備予選が、4月13日から24日までの12日間にわたってワルシャワで開催された。5年に1度のステージを目指して熱演を繰り広げた若者たちの姿をレポートしよう。予備予選に参加した152名のリストを見ると、主要な国際コンクールに入賞歴のある実力者がずらりと顔を揃えている。予備予選の結果は4月13日に発表され、10月の本大会に出場する84名が出揃った。

前回は17名と国別最多だった日本は12名。今回の国別最多はポーランド15名、中国15名、次いで日本、そして韓国9名。優勝候補の呼び声が高い韓国のチョ・ソンジンは、繊細なタッチでヤマハCFXの色彩豊かな音色を操り、抒情あふれる演奏を聴かせてくれた。2012年第8回浜松国際ピアノコンクール奨励賞のアシュレイ・フリップ(イギリス)、セミファイナリストのロマン・マルティノフ(ロシア)も楽しみな存在だ。前回も出場した須藤梨菜、野上真梨子は、5年間の研鑽の成果を發揮し、自身のショパンへの想いを存分に聴かせてくれることだろう。民族の伝統を感じさせながら新鮮なショパンの世界を描き出したポーランド勢、ウーカシュ・ミコワイチク、ティモテウ・ビエス、ミハウ・シマノフスキなども、予備予選免除の3名とともに本大会での活躍が期待される。



コンサートミストレス立田祥子さん、ピアノ野上真梨子さん、指揮三原明人氏

【指揮者：三原明人氏と市響】

ヴィオラ星 乘昭

指揮者三原明人先生は市響ジュニアオーケストラ初代のコンサートマスターであることをご存じない団員もいることと思います。最近のことは良く分かっている方が多いので、古い昔のことを書かせていただきます。1977年12月4日第123回市響「ファミリーコンサート」村上正治先生(市響創設者)指揮でヴィヴァルディ作曲四季より「春」を三原先生がヴァイオリン独奏(当時中学3年生)。私は市川市市民会

館の照明室から聞いていました。1983年5月5日第161回市響「第8回市響ジュニアオーケストラ」指揮山崎滋氏でバッハ「ヴィオラ協奏曲」を三原明人氏独奏。1989年3月19日第202回市響「室内楽の夕べ」指揮三原明人、ソプラノ鮫島有美子、ハープ早川利佐子。その後は皆さんご存じの方が多いと思います。1989年オランダで行われた第2回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクールで見事第2位を受賞されました。それを機にヴィオラから指揮者への転向を決意し、麻布の高級レストランを貸し切っての結婚式が行われました。市響から村上正治先生、故横田行雄氏そして私が出席させていただきましたが、結婚式終了したその日の6時からの市響の練習にかけつけられ、新婚旅行を延期されたのです。その熱意に感動して花束を団員が贈呈しました。その時の写真があります。

・**市川交響楽団協会(R)年間演奏会 2023年(令和5年)**

- ・ 2/11(土) #426「市川交響吹奏楽団定期演奏会」指揮:直井大輔
市川市文化会館大ホール
- ・ 3/5(日) オペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」公演 市川市文化会館大ホール
- ・ 3/25(土) 「第10回 LLC フレンドシップコンサート」
ヤマザキ製パン・LLC ホール
- ・ 5/5(祝) #427「市響ジュニア
オーケストラ
第46回定期演奏会」
指揮:直井大輔
市川市文化会館大ホール
- ・ 7/16(日) #428「交響楽の午後」
指揮:堺 武弥
ゲスト:エリック・ミヤシロ(Tp)
市川市文化会館大ホール
- ・ 9/10(日) #429「市吹・秋のコンサート」
指揮:直井大輔
市川市文化会館大ホール
- ・ 9/16(土) 「第11回 LLC フレンドシップ
コンサート」
ヤマザキ製パン・LLC ホール
- ・ 10/8(日) #430「合唱の集い」
指揮:大津康平
市川市文化会館大ホール
- ・ 12/3(日) #431「ファミリー交響楽」
指揮:三原明人
市川市文化会館大ホール



第431回市響「ファミリー交響楽」

2023年12月3日(日)
14:00開演(13:30開場) 入場無料
市川市文化会館大ホール
指揮:三原明人 管弦楽:市川交響楽団
ドビュッシー/管弦楽のための「映像」
より "イベリア"
プロコフィエフ/ピアノ協奏曲第3番
ピアノ独奏:野上真梨子
ブラームス/交響曲第4番
・ お問合せメールは
main@ichikyo.org こちらへ